会報 安来節

YASU　GI　BUSHI

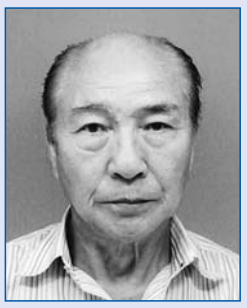
発行所 安来節保存会
〒692-0064
島根県安来市古川町534
TEL 0854－28－9988
FAX 0854－28－9393
http://www.y-hozon.com／
E-mail:admin@y-hozon.com

上位昇格者

11月1日に開催された安来節保存会代議員会において、令和4年度の上位昇格者と表彰者、感謝状贈呈者が報告されました。
今回、准名人に5名、大師範に12名の方が昇格されました。
おめでとうございます。
来年、1月10日の唄い初め会において、免状・表彰状の授与と昇格披露を行います。

◆准名人（五名）

妹尾なおみ
唄の部
（加　茂）



増田惣市
踊の部
（本部道場）

清山満智子
絃の部
（本部道場）

小村顯二
絃の部
（松　江）

出雲正之助
銭太鼓の部
（益　田）

◆大師範（十二名）

絃	高橋定雄	（本部道場）
踊	一宇川敏	（本部道場）
銭太鼓	小池孝子	（本部道場）
唄	佐藤俊月	（加　茂）
踊	和田俊助	（加　茂）
唄	吾郷静子	（湖　陵）
唄	安喰久重	（大　社）
絃	堀江さつき	（松　江）
鼓	経種保雄	（松　江）
銭太鼓	渡部泰孝	（松　江）
唄	吉田香代子	（津ノ井）
踊	伊東易子	（東　海）

感謝状贈呈者（一名）

（代議員会資料名簿順）

石川弘一（江田島能美）

会員表彰者（四十九名）

一宇川敏	（本部道場）	
増田友美子	（本部道場）	
安蒜美奈子	（本部道場）	
山崎愛佳	（本部道場）	
増田明美	（本部道場）	
上坂博樹	（飯　南）	
原富士男	（加　茂）	
高見葉子	（神　門）	
別所ヒロ子	（湖　陵）	
日野光郎	（大　社）	
糸原健司	（仁　多）	
原米子	（平　田）	
濱野セツ	（浜田中央）	
村岡万子	（益　田）	
佐藤治郎	（松　江）	
香月富貴江	（境港東）	
山口年子	（津ノ井）	
坂田寿栄	（東　伯）	
中島秀明	（鳥　取）	
重藤佳子	（江田島能美）	
松本ヒデ子	（江田島能美）	
木原堯子	（広　島）	
清水伸子	（広　島）	
矢吹俊	（広島玉実）	
田中園子	（津山中央）	
小林敏子	（山　口）	
蛭子玲子	（関　西）	
西原和恵	（関　西）	
林三恵	（関　西）	
濱崎正竹珠	（静　岡）	
濱崎正美智珠	（静　岡）	
一宇川悦子	（東　海）	
一宇川克司	（東　海）	
一宇川正光	（東　海）	
一宇川孝子	（東　海）	
一宇川健太郎	（東　海）	
一宇川隆子	（東　海）	
一宇川徹	（東　海）	
一宇川稔子	（東　海）	
石川恭子	（東　海）	
星野匠	（東　海）	
都築安子	（東　海）	
須藤万三夫	（関　東）	
浅田節子	（東　京）	
庄野涼子	（東　京）	
桂俊弘	（東　海）	

新役員決定

任期　令和3年10月1日～令和5年9月30日

このたびの役員改選に伴い、新役員が決定しました。
安来節がますます普及・発展するよう新役員の方々のご尽力に期待し、会員の皆様のご協力をお願いします。

会長
田中武夫（市長）

副会長
伊藤徹（副市長）
永田巳好（市議会議長）

専務理事
内田修次

常務理事
前田康博（市政策推進部部長）

常任理事
渡部お糸（家元）　四代目
今後、選任予定（審査長）
今後、選任予定（指導部長）

理事
岩崎勉（市議会議員）
澤田秀夫（市議会議員）
渡部お糸（家元）　四代目
今後、選任予定（審査長）
今後、選任予定（指導部長）
吉野和夫（本部ブロック）
中尾俊介（出雲ブロック）
高次春雄（広島ブロック）
砂川清（本部ブロック）

監事
長島勲（本部道場）
西郁郎（斐川）

資格審査員
渡部孝夫
渡部お糸　四代目
矢倉哲郎
一宇川勤
出雲正之助　五代目
富田徳之助
濱崎正人　二代目
松尾英興
野々村府美枝
石岡邦宏

指導部員
原淳文
松村益男
出雲啓之助
伊藤芳男　四代目
安達順吉
小村顯二
富田光雄
渡部泰孝
妹尾なおみ
山本英三
安達雅宏
中尾俊介（出雲ブロック）
西村栄市（石見ブロック）
高次春雄（広島ブロック）
田村実（関西ブロック）
棚橋保（関東ブロック）

私と安来節

安来節がさらに愛されるための秘訣は

資格審査員
渡部孝夫

安来節は平成二十六年安来市無形民俗文化財に指定されました。これは長い歴史がある安来節が市民から評価されたということだと私は思います。同時に評価していただきたいのは、東西の保存会会員が今も熱心に安来節を支えていることです。

地元の根強い人気に安来節は支えられているとはいえ、民謡離れが進み会員の減少が目立つようになりました。好む方向が変わって安来節が昔のように唄われなくなったので、これは仕方がないことだという人がいます。また、考えても打つ手が見当たらないとも言います。これまで安来節に関わった多くの人たちはひたすら難しい技量の習得に努力をし、改良をしてレベルを上げてきました。その結果愛好者から支持をされて一一〇年を迎えて民謡団体安来節保存会が今も維持されています。

これから先の安来節は同じ取り組みで進歩と愛好者の支持は得られないかもしれません。それは、進化した安来節をさらに発展させることは、よほど革新的な改善と普及技術の優れたマネジメントが必要だからです。そこで、安来節の評価を高めるために今できることを考えてみます。民謡が好きとか嫌いの好みもありますが、「心を打つ安来節」であれば、どのような人にも関心を持たれて評価が高くなることは間違いありません。演技は客席に訴えることが一番です。どれだけ感動を与えるかですが、心が弾む安来節は二つの要素が芸の基本にあることがわかります。

一、聞く人に話しかけている。

二、唄う人も聞く人も、歌詞の内容に共感している。

では、隆盛を極めていた時の安来節の違いを少し比較してみたいと思います。

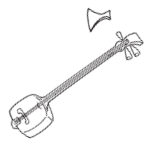
今の舞台はあまりにも違いがありすぎると感じているのは私一人ではないと思います。例えば歌詞の伝え方に違いがあります。風情、人情、教訓、風俗などが詰まっている短い歌詞を聞いて楽しむ人が多くいますから、意味を伝える丁寧な唄い方、歌詞を話し言葉のように工夫しています。三味線はタメを十分にとって歌手の特長を引き立てるメロディーが感じられます。鼓は舞台で使用されたのは新しく大正の終わりか昭和の初めのころですが、間のとり方と気合の入った弾みの良い掛け声で、自己主張している技術は心が弾みます。

このように三拍子揃い競演している舞台は、観客を引き付ける安来節でした。

当時と現在では歌詞の世界に生活環境の違いがあるので、意味を同じ様にとらえることは難しいかもしれませんが、これを理解し表現することが演技の力です。

保存会は、昇格意欲を喚起する審査制度があって発展した側面があると思いますが、審査に合格する努力が全てではありません。戦後再発足した保存会は、会員が趣味の安来節を通じ生活が豊かになることを期待しています。そのために安来節の研究は欠かせないことですが、安来節が成り立った歴史から出てくる深い味わいをどのように表現するか、節目に当たって、関係者は真剣に取り組む課題であると思います。難しいことを言っても物事は進展しません。一人ひとりが自分の技量の追求だけではなく、周りの人と言葉を交わし安来節について語り合うことが、今一番望まれています。健康長寿は張りのある生活のために目標を持つことが第一番です。そのためにも会員の連携が大切です。

安来節保存会の歴史の節目に当たり、安来節の魅力が理解され、今後の大いなる発展に努力したいと思います。



須田茂善先生を偲んで

西　郁郎
（斐川支部長）

須田茂善先生は令和三年四月十八日未明、九十一才五ヶ月でお亡くなりになりました。

須田先生は二十代の頃、当時の勤務先であった宍道ＯＭの同好会に入会し、安来節と三味線に出会われたそうです。昭和三十二年に師範に昇格しておられます。

昭和四十八年安来節保存会斐川支部の発足と同時に斐川支部に入会されました。昭和五十六年に大師範、平成九年に准名人、そして平成二十七年に絃名人に昇格されました。

私が子どもの頃、大人たちのお酒の席は必ず安来節でした。出雲で酒席の付き合いをする為には安来節が唄えなければならないと思っていました。そんな昭和四十九年に「安来節が教えてもらえるそうだ」との話を聞いて、その会に入会しました。斐川町出西教室で数十名の人が居たと思います。正調安来節が唄える人は誰も居ません。三味線など無く、酒は無かったと思いますが手拍子だけの宴会状態だったと記憶しています。安来節保存会と云う組織があり、唄や三味線の審査を受けて資格がもらえることも初めて知りました。酒席で手拍子の安来節が唄えれば良いと思っていましたので、審査を受ける気持ちはありませんでしたが、昭和四十九年六月二日、今日、西野小学校で資格審査会が有るので受審するようにと呼び出しが掛かり、農作業を中断して審査会場に向かいました。そこで初対面の方に三味線を弾いて貰うことになり、「唄は何本で唄う?」「分かりません」手拍子でしか唄ったことのない私には、何のことなのか意味が分かりませんでした。「チョット声を出してみなさい」その方の三味線で審査を受けました。何本調子で何を唄ったのか記憶に有りませんが、見事に外れたようです。三級でした。三味線を弾いて貰ったのが須田茂善先生でした。その時が須田先生との初めての出会いでした。私は安来節が好きだったのでしょう。習う前から二代目出雲愛之助先生の「鹿の声」をレコードで聞き覚えて唄っていました。素人はとんでもないことをするものだと、今考えれば冷や汗ものですが、当時は周囲に正調安来節など唄える人がいなかったので結構通用していた気がしています。

三年後の昭和五十二年から三味線を始め、須田先生に手ほどきを受けました。二級からのスタートで、まだ二段、三段がない時代でしたので五年もすれば准師範でした。昭和五十三年に唄、五十六年には絃が准師範になりました。

当時の須田先生の三味線を聞いていた私には師範とは雲の上の人でした。正確で丁寧な撥さばきの須田先生の三味線は、私のような未熟な者が貰う資格ではないと思っていましたので、師範挑戦はしませんでした。昭和五十七年からは鼓を始めたので安来節は続けていました。

昭和六十年からは二代目渡部音吉先生に三味線の指導を受けるようになりました。そして昭和六十二年に三味線の師範を頂きました。鼓は原文男先生に教えていただき、平成元年には唄と鼓の師範を頂きました。五年前からは五代目富田徳之助先生に三味線を教えて頂いています。これまでに何度か全国優勝大会で入賞させて頂いた時にも、須田先生は「おめでとう。よく頑張ったね」といつも声を掛けて下さいました。須田先生の指導はいつも優しく、厳しく注意されることはありませんでした。これも須田先生の優しいお人柄によるものです。私たちも見習わなければならないと思っています。最近は耳が悪くなっておられたので調弦には苦労されていたようですが、最後までお元気で三味線を弾き続けることが出来たことには満足しておられると思います。今年のビデオ審査も気に掛けておられて二月十一日の練習にもお元気な姿を見せられて、お弟子さんに「そこはもっと丁寧に弾いて」などと声を掛けておられました。それが須田先生にお会いした最後になりました。

私たちも須田先生の遺志を受け継いで、安来節の発展を願いながら後進の指導に当たらなければならないと感じています。

須田茂善先生のご冥福を心よりお祈りいたします。　合掌

モットーは幸せのどじょう

砂川古都里
（大利根支部）

「人生楽ありゃ苦もあるさ～♪」という水戸黄門の唄はまさに人生そのもの。諸行無常を心得ていなければ、人生の大波小波荒波を乗り越えて歩むこと等、とてもできやしない（笑）

私は、重度のアトピー性皮膚炎が原因で目を患い、白内障・網膜剥離・円錐角膜等の手術を幾度か受けた。人にはそれぞれ計り知れない状況や環境があるように、私も病だけではない様々な大波小波をサーフィンさながら乗り越えてきた。

五歳からピアノを始め、クラシックしか知らなかった私が、泥鰌掬いに傾倒していったのには次の理由がある。

あの絃と鼓の独特のリズムとメロディを聴くと、体がうずうずと踊りださずにはいられず、血が騒ぐ。体の中はまるでお祭り騒ぎだ。

そして興と趣のある技芸を追求する奥深さ、面白さに、私の脳と体はますます安来節に陶酔してしまっている。

踊りの三番までのストーリーはまさに人生そのものが凝縮され、唄に至っては娑婆の現実と切なさ、豊かな自然が心を打つ。

私のモットーは、困難な現実の人生を吹き飛ばすように、笑いながら幸せの泥鰌を掬って皆に分けてあげたい、その一心で稽古をし、踊り唄っている。

師匠はもちろん、全ての人に深く敬礼（きょうらい）し感謝している。

https://kotori-sunagawa-yasugibushi.jimdosite.com

私と安来節の出合い

中瀬明代
（関東支部）

私は、若い時から趣味に陶芸、お花、お茶と民謡をやっていましたが、ある日、安来節どじょうすくいを拝見して、楽しい踊りなので気に入り、自分も踊ってみたいと思っていました。そんな時に同じ民謡会の人から「私は、島根県出身で安来節の唄を習っているので、今度、浅草木馬亭で発表会があるから一緒に見に来ないか」と誘われました。それを拝見し、とても楽しい一時を過ごさせていただきました。年齢的にも難しかったのですが、自宅から片道二時間半掛け、浅草の教室まで通わせていただき、一生懸命勉強しました。数年後には、木馬亭で体験される人の前でも踊れるようになり、五年程通い、とても楽しく過ごしました。その後、唄も習い始めましたが、通常の民謡と違い、難しいことは分かっていましたけども、なかなか覚えられませんでした。それでも、先生方や仲間の皆さんのおかげで、自分では少しずつ上達していると思い頑張っています。

主人から声を掛けられ町田市、相模原市の各施設の老人ホーム、障害者施設、保育園等から依頼があるときは、私と主人で二人踊り、孫二人はダンスと、それぞれの分野でボランティア活動を行っています。また、地域の文化祭やお祭り等に声が掛かり、楽しんでいます。

東北の震災では、誰もが「何か手助けできないか」と心に抱き、それぞれの思いで何かしら援助されたのではないでしょうか。私達も、相模原市社協と岩手の社協を通じて、震災一年後の七月に岩手の大船渡にファミリー七人で私達の出来る踊り等、ボランティア活動を三年間続けてさせていただきました。テレビで情報は知っていましたが、がれきの山、子供達もあまりの被害に愕然といたしました。主人も、その光景に「戦後の東京の焼け野原だ」と言っていました。このような状況下で、踊り等を行って、被災された人の心を少しでも癒すことが出来るのか、かえって迷惑をお掛けしないかと不安になりましたが、皆さん温かく迎え入れていただき、歓迎していただきました。仮設住宅の広場の前や中で演技を披露し、夏の炎天下でも、皆さん最後まで見ていただき、拍手喝采を浴び、逆に私達の方が元気をもらい、感激しました。孫達も何かを感じたと思います。

この一年半は、コロナ禍でボランティア活動も休止となり、民謡教室の練習にも行けない日々が続いております。早くコロナが収束して自由に行動出来る日を待ちたいと思います。

安来節保存会の発展と皆様の健康をお祈りいたします。また、皆様にお会い出来る日を楽しみにしております。

支部情報

吾郷靜子
（湖陵支部）

「ハイッツドンツンテン」♪「っずもめいぶつ、にもつにならぬ」澄んだ唄声に、爺、婆達、「わぁスゴイ、上手上手」と大拍手、一ヶ月程前に見学に来ていた小学一年生の男の子が、もう唄っている。素直な発声、音程もいい、しかも三味線に合わせて唄ったのには、もう感動、これは支部での練習の一コマです。高齢化しているというより、老齢化している現状、こんな頼もしく、嬉しいことはありません。

現在、湖陵支部は、小学生から九十歳までの九十六名、十の教室で勉強しております。以前は、小学生がたくさんおりましたが、中学生になると部活へと力が入り、残る子供達は少ないですが、嬉しい事もあります。高校のブラスバンドで「チューバ」という大きな楽器を吹きながら、三味線も頑張っている格好良い男子もいます。中学生になって、やめた子供達も、いつか社会人となり、何かの機会に安来節を思い出し、きっと帰って来ることを信じ、コロナ禍にあっても、私達高齢者に出来ることは、前向きに声を出し、楽器に触れ、元気で明るく楽しく教室を支えていくことではないかと思っております。

湖陵支部は、昭和五十四年当時、三百余名のマンモス支部であった神門支部から分家という形で小川幸夫先生、石飛孝先生が中心となって百二十名で発足されたと聞いております。最近では、定年後、孫にも手が離れて入会された人、伴侶を亡くして失意の中から安来節に出会い、今は生き生きとしている人、少々認知が入った人が唄うことによって、本当に治ってしまったこと、七十七歳で初めて審査を受け、しおりに載った自分の名前を見て「やっぱり、嬉しいもんですねぇ」と喜んだ人、そんな様子に支部長の目は一層細まります。

これから先、どんな時代がやって来るか、わかりませんが、日本の民謡が人々の心の中に残ってくれることを願い、支部長を中心に和をもって歩みを続けていけることと思っております。

感動を呼ぶ 音色と 響き　　丹念な加工 調整 仕上げ

㈲仁木三味線

製造・販売/修理 三味線・鼈甲撥・尺八・太鼓

〒240-0022 神奈川県横浜市保土ヶ谷区西久保町197-1
TEL 090(5782)7408 FAX 045(741)4796

HP http://www.syamisen.com/

―安来節保存会 大江戸支部―

“コロナに負けるな！”

芸術の秋到来、11月25日に毎年恒例の「第18回おさらい会」開催しました。
十分にコロナ対策の上、思いっきり楽しみました。

大江戸支部長　森脇　忍

支部PR動画を募集します！

安来節保存会は、年々、会員が減少しております。
会員獲得を目的とし、各支部にて「PR動画」を撮影していただき、その動画をYouTubeの「安来節保存会動画チャンネル」にて、たくさんの方々にご紹介したいと考えております。
つきましては、下記要領にて募集いたしますので、多数のご応募をお待ちしております。

記

募集期間　**令和３年12月～令和４年４月**（ビデオ審査収録時に撮影していただいても構いません。）

提出方法　**当会貸出ビデオ以外は、MP4形式でUSBメモリかSDカードで提出してください。**

動画時間　**１支部３分以内**

動画内容　**各支部の紹介、宣伝等**（感染対策の上、数名で収録されても結構です）

※撮影の際に必ず含めていただく内容

1．**支部の活動拠点**（例：〇〇近郊を中心に活動しております安来節保存会〇〇支部ですなど）
2．**支部の活動内容**（例：毎月〇回の練習会、〇月発表会、□月慰問活動など）
3．**ご当地の言葉にて勧誘**（例：みなさん、一緒に安来節をやりませんかー。すごく楽しいですよー。みなさまのご参加、お待ちしております。）

↓（島根県東部地域方言にて下例）

みなさん、一緒に安来節をやらんかねー。がいにおもっせけんねー。
みなさんの参加を待っちょーけんねー。

《**注意事項**》笑顔で楽しい雰囲気の撮影をしてください。撮影場所、服装などは自由です。動画内にて連絡先など個人情報は、言わないでください。

例　文

安来節保存会の安来支部です。安来支部は、島根県安来市近郊で月に４回「民謡安来節」教室を開催しております。安来節には、唄、三味線、鼓、どじょうすくい踊り、銭太鼓があり、お好きなものを選んでやってみませんか。運動不足解消、ストレス発散、宴会芸などにも役立ちますよ。
詳しくは、安来節保存会までお問い合わせください。
みなさん、一緒に安来節をやらんかねー。がいにおもっせけんねー。みなさんの参加を待っちょーけんねー。

事務局からのお知らせ

安来節のしおり（令和３年度版）に誤りがございました。お詫びして訂正いたします。

【訂　正】

広島東支部　P142

誤 ◆初段　踊　田端みず江 → 正 ◆初段　踊　田畠みず江
誤 ◆一級　絃　田端みず江 → 正 ◆一級　絃　田畠みず江

会員の皆様からの具体的な提案や建設的なご意見やご要望など、率直な声をお待ちしています。お気軽にお寄せください。

訃　報

唄名人、仲前長治さん（九十五歳）が令和三年十一月十六日逝去されました。
昭和三十六年に安来節保存会に入会され、今日まで安来節保存会に多大なご功績を残されました。

絃名人、須田茂善さん（九十一歳）が令和三年四月十八日逝去されました。
昭和二十六年に安来節保存会に入会され、今日まで安来節保存会に多大なご功績を残されました。

唄准名人、樋野暉夫さん（八十四歳）が令和三年三月三十一日逝去されました。
昭和四十三年に安来節保存会に入会され、今日まで安来節保存会に多大なご功績を残されました。

勝部一央さん（大田支部長、八十一歳）が令和三年十月二十八日逝去されました。
勝部さんは、今日まで安来節保存会に多大なご功績を残されました。
ここに謹んで四名様に対し哀悼の意を表し、ご冥福をお祈り申し上げます。